

加茂法話会 令和元年六月二十四日

一、私自身の善や悪の行為とその習慣の影響力は、三つの時間差があり、第一は今の行為にすぐ反応が現れ、第二には行為はしばらくして、あるいは次の時代に現れ、第三にははるか後に、忘れた頃現れます。これを行為の影響の三つの時間差というのです。

仏と祖師方のさとの道を学習するためには、最初にこの三段階の影響力の真理を学び、実践すべきです。そうしないと大抵の人は道を間違えて、縁起の理を否定する間違った思想に落ちるばかりではなく、悪を悪と思わないという悪の道に陥って、長い間愚かさとしみを受けることになるのです。

修証義 第五節 曹洞宗総合研究センター講師 中野東禅老師 訳

二、臨済宗・松原泰道老師(明治四十(一九〇七)年〜平成二十一(二〇〇九)年)百一歳

平成十年十月四日、演題「心田を耕す」で、田上町仏教会主催の講演を頂く。

『先祖は、いい人ばかりではない。石川五右衛門のような先祖がいるかもしれない。私たちが善いことをして、ご先祖の間違ったことを修正することができ、善いことをすることによって自分の心も耕すことができる。それが子孫に善い種を蒔いていくことになる。』

過去は、取り返しがつかないけれども、見直すことができる。』

三、たとひ百歳の日月は聲色の奴婢しやうしきぬびと馳走ちそうすとも、そのなか一日の行持を行取せば、一生の百歳を行取するのみにあらず、百歳の佗生をも度取すべきなり。

正法眼蔵 行持上

東龍寺住職 渡邊宣昭 合掌